国史跡

八代城築城400年

本市の中心市街地に位置する八代城。初詣やお花見、七五三など、皆さん一度は訪れたことがあるのではないでしょうか。

本市のランドマークであり、国史跡でもある「八代城」は、今年で築城400年を迎えました。

大きな節目となる今年は、改めて八代城の歴史や八代地域の文化を再認識するとともに、次世代に伝承していく新たな文化や魅力を発信していく一年として、さまざまな事業を展開していきます。

八代城の移り変わり

八代地域は古くから球磨川による水運と薩摩街道などの陸路の結節点にあたる交通の要衝であったことから、中世から近世にかけて3つの八代城（古麓城、麦島城、八代城）が築かれてきました。

八代城モノガタリ

◆初代八代城　古麓城

（1330年代頃～1587年）

後醍醐天皇の忠臣 名和義高が八代の地頭職を与えられ、以後名和氏・相良氏、そして島津氏が約250年にわたり在城。豊臣秀吉が九州攻めの途中で滞在した。

◆二代目八代城　麦島城

（1588年～1619年）

豊臣秀吉が八代の地を小西行長に与え、徳淵近くの沿岸部に築城。関ケ原合戦で小西行長が敗死したあと、加藤氏が入城。熊本城主である加藤氏の支城として、全国でもめずらしい肥後熊本の「一国二城」を支える城だったが、1619年の大地震で崩壊した。

◆二代目八代城　八代城

（1622年～現在）

加藤氏が江戸幕府の許可を得て1622年に再建。「一国一城令」発布後に外様大名が築いた最後の城。1646年に松井興長が八代城を預かることとなり、以降廃城した明治まで松井氏が在城。1672年に落雷で本丸大天守・小天守などが焼失した。

▲八代城跡本丸航空写真（北東から、2017年撮影）

八代城跡の特徴

八代城は、「本丸」を中心に東から南にかけて逆L字型のように「二の丸」が、本丸の西側に「三の丸」が、本丸の北側に「北の丸」と「出丸」が配置されています。

城は政治・経済・軍事の中心であり、麦島城崩壊からすみやかに立ち直る必要があったため、八代城の縄張（城郭の配置）は麦島城をほぼ踏襲しています。また、石垣は麦島城の石材を再利用しており、城内の櫓などの建物の部材もその部材を再利用したと考えられています。

《お堀》

▲大天守～月見櫓跡の石垣

城の南側と東側に城下町が展開し、その外側には外堀として人工的に開削された前川と総構えの石垣で守られていました。本丸の北西隅には、大天守と小天守が連なり、大天守から本丸南西隅の月見櫓にかけての石垣の連なりは八代城の中でも最も美しい景観となっています。

《石垣》

▲石垣隅角部の積み方に違いがあります

現在も残る石垣は、当時では珍しい自然石または粗割した石灰岩を積み上げる古い形式の野面積で築かれています。

石垣で最も大事な隅角部だけは算木積が採用されています。

▶市立博物館に展示されている八代城の模型

インタビュー

八代城跡は八代市と市民の礎（いしずえ）

八代市立博物館学芸員
山﨑　摂（せつ）さん

八代市民にとっては当たり前にある八代城跡ですが、市外から来た人は街中に城跡があることに驚かれます。八代は川と海と山を有する地理的にも非常に重要な拠点だったことで、お城が置かれ続けた歴史があります。八代城や石垣の建設には、球磨川上流から木材を運んだり、地元の岩を切りだしたり、多くの人手が必要でした。皆さんのご先祖もきっと何らかの形で八代城に携わっていたと思います。

八代城跡の特徴の一つは石垣に白島から切りだされた白い石灰石が使われていることです。長い年月の間に黒ずんでしまっていますが、現在も一部白い石垣を見ることができます。石垣をじっくり見るとノミの跡や刻印が残っているものもあり、石垣を守ってきた職人たちの生きた証を垣間見ることができるのも魅力です。

また、皆さんが通勤や通学で通っている道路やお寺の位置などを昔の地図と比べると、ピッタリ重なる部分がたくさんあります。代陽校区のあちらこちらに八代城お堀の石垣跡が残っています。普段何気なく見ている風景の中にも実は八代城ゆかりのものがあることを知ってほしいです。

市立博物館では、八代城の精巧な模型を展示していますが、節目となる今年は、八代城跡の見どころをわかりやすく解説したパンフレットを新しく作成しました。また、スマートフォンのアプリで楽しめるスタンプラリーも開催中です。この機会に歴史を知ることで改めて八代市の魅力や強みを発見してみてください。

インタビュー

節目をみんなで盛り上げたい

八代青年会議所理事長
渕上（ふちがみ）　玄輝（げんき）さん

八代城築城400年実行委員長
柳口（やなぐち）　崇（しゅう）さん

■八代城跡の思い出

渕上さん　私は代陽小学校出身なので、子どもの頃は通学路として当たり前にみていました。子どもの七五三やお花見など市民が気軽に集える場所ですね。

柳口さん　八代城跡があることで自然や歴史、文化に触れることができ、受け継ぐ気持ちも育まれていると思います。

▶八代城築城400年公式マスコットキャラクター「八城守（やしろもり）ちゃん」

▲八代城築城400年実行委員会公式ホームページで各種イベント情報をお知らせしています。

■八代城で地域活性化

渕上さん　青年会議所では2016年から「白鷺城（しらさぎじょう）まつり」を開催するなど、八代城築城400年に向けて取り組んできました。今年はその集大成として、市民の人に喜んでもらえるイベントを企画して盛り上げていきたいです。

柳口さん　最近はスマートフォンアプリやゲームなどをきっかけにお城や歴史を好きになる人も多いので、八代城跡を観光地として市内外の人にアピールしていきたいです。実際に八代に来て、見て、触れて、学んでもらうことで八代市の活性化にもつながると思います。

■一年を通して盛り上げたい

渕上さん　400年だからこそ団結できるタイミングだと思うので、一人ではできないことをいろいろな人の力を借りながら、一年間通してやっていきたいですね。地元八代に愛着を持つ人を増やして地域活性化につなげていきたいです。

柳口さん　いろいろな世代が楽しめるイベントを開催していく予定です。歴史アニメーションやチラシの作成の他、築城400年記念飯メニューの開発、民俗芸能の公演会やギネス記録挑戦など、市民の皆さんにも気軽に参加していただき、八代城に少しでも興味関心を持ってもらえたらうれしいです。

みんなで参加して盛り上げよう

築城400年記念事業

地域団体と連携しながら、一年を通じて盛り上げていきます。皆さんの参加をお待ちしています。

4月9日㈯［終了］

築城400年記念式典　～400年の時を刻む八代城～

▲関係者ら約100人が参加しました

4月～12月

連続講座　城下町八代の歴史と文化

本市の学芸員が講師となり、八代城や祭り、干拓などさまざまなテーマで城下町八代の歴史と文化を学んでいきます。（日程は変更になる場合があります）

◎時間／午前10時～11時30分　◎場所／お祭りでんでん館

日　程	テーマ	講　師
4月16日㈯	［終了］　八代城の移り変わり	山内 淳司
6月19日㈰	八代市の日本遺産	村田 仁志
8月21日㈰	八代市の考古資料	西山由美子
10月16日㈰	八代海干拓遺跡	山内 淳司
11月20日㈰	お下り100年～神幸行列のヒミツ～	早瀬 輝美
12月11日㈰	城下町八代の歴史と文化	米崎 寿一

▲築城400年にあわせて400個のバルーンセレモニーがありました

▲4月16日㈯に開催された連続講座

7月

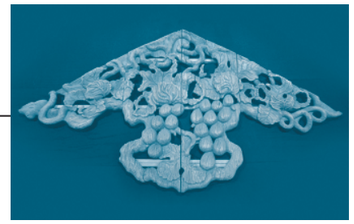
お祭りでんでん館開館1周年記念

「民俗芸能講演会と無形民俗文化財の特別公開」

8月30日㈫～9月25日㈰　◎場所／お祭りでんでん館

築城400年記念展示「新発見！八代城のヒミツ」

平成28年熊本地震で崩壊した八代城跡本丸石垣の修復記録や、新庁舎の建設に伴う発掘調査で見つかった八代城跡二の丸石垣の胴木（どうき）、八代城本丸御殿の一部であった大書院の懸魚（げぎょ）など、初公開となる貴重な資料を展示。八代城跡の発掘調査で見つかった軒瓦（のきがわら）の拓本体験も実施。



▲大書院の懸魚

9月下旬

八代城築城400年記念シンポジウム

城郭の専門家を招いて、石垣等の城郭構造や八代城に関する古文書類などから八代城の魅力を紐解いていきます。

記念事業に関すること 問合せ　文化振興課 ☎33-4533

令和3年11月に欄干橋（らんかんばし）改修

八代城跡本丸を所有する八代宮は本丸の表玄関（おもてげんかん）であった東側の高麗門（こうらいもん）前の欄干橋を改修され、欄干に保存されていた築城年を示す「元和八年（げんなはちねん）」銘の擬宝珠（ぎぼし）を市立博物館に寄託されました。寄託された「元和八年」銘擬宝珠は、現在市立博物館で公開しています。

私たち八代市民の記憶の中に八代城跡で過ごした思い出があるように、400年間八代を見守り続けてきた八代城跡にも、戦争や災害など400年分の記憶が刻まれています。今年は400年分の歴史や文化に触れて、八代を作り上げてきた人々の思いを知り“歴史と文化のまち八代”を感じてみてください。

《特集　八代城築城400年　終》